

令和4年度 学校経営計画・学校評価

4月5日提出 10月3日提出 3月15日提出

学校番号 14 岡豊高等学校 課程 全

高知県の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき学校像	・人間力の向上・学力の増進・希望進路の実現・部活動の躍進を目指す学校 ・礼節を重視する教育を行うとともに、生徒一人ひとりを大切に、能力を最大限伸ばして知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かでたくましい人づくりを目指す学校 ・ 教職員、生徒が、個人を尊重しつつ、互いに助け合い、学校に集う全ての人 ・ が、やりがいをもって過ごせる学校	目指すべき姿を実現するための取組等	・コースの特色をより明確にし、多様な学力や進路希望のある生徒一人ひとりの能力を伸長 ・教育活動を「主体的な学び」や「社会とのつながり」の観点で捉えることによる生徒のキャリア教育の推進 ・部活動指導の充実により豊かな人間性や礼節を重んじる精神を育成 ・ICT利活用による授業改善の実践のための整備と研修の充実 ・生徒用タブレットPCの利活用 ・学校のデジタル環境を整え、学校と保護者等の迅速な情報共有 ・ 職員が働きやすい環境の整備
生徒像	・良識ある社会人として規範意識を身につけた生徒 ・自らを信じ目標に挑戦する生徒 ・希望進路の実現に向けて確かな学力を身につけた生徒 ・既習の知識を統合して新たな「学び」を創造できる生徒 ・知徳体の調和のとれた人間性豊かな生徒 ・多様な価値を尊重し人として自己と他者を高めあうことのできる生徒		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【B】	きめ細かな取組をされていることがよくわかります。年度当課題の大きかった事項についても着実に改善されていることがわかります。それでも目標達成に至っていないのは学校が分析されているとおり、生徒の能動的な学習を引き出す取組が必要なのだと思います。/生徒を引き付ける授業で自学へ導く。/一人一台PCの活用などが考えられるのでは。
【社会性の育成】 評価 【B】	生徒の主体性や積極性を育てるには、学校が取り組まれているように、学校行事や部活動で自己決定したり話し合ったりすることが大切で、アンケート結果でも、もう一息で目標達成というところまで来ていると思います。/縦割りのコミュニケーションを部活以外で機会を増やす。/
【チーム学校】 評価 【B】	学校全体での取組により、授業や部活動に対する生徒の満足度が高く、他の評価指標も年度を遡って数値が上がってきている。働き方改革に関する時間外勤務の状況も少しずつ改善してきていると思います。/チーム学校の取組をチーム学校で検証する。/学校評価アンケートについて「学校生活に満足していない」との回答が19.4%の値を検証すべきと考える。/教員の時間外勤務については、良い人材の確保や健康の保持増進のためにも抑制が必要。/

【重点項目：生徒に対する取組項目】

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	・基礎力診断テストにおける学力層Dの割合を15%以下とする (R3第2回:1年16.2%【D3:8名2.7%】、2年18.1%【D3:5名1.9%】) ・基礎力診断テストにおける学力層ABの割合を35%以上とする (R3第2回:1年35.0%、2年30.0%) ・国立大学合格者20名以上、公務員合格者10以上、進路決定率100%とする ・学習調査の授業以外の学習時間について「ほとんどしない」生徒を前年度以下とする (R3第2回:1年80名、2年95名)	・One-Weekトライアルを学び直し教材として活用 ・学力定着や学習意欲の向上のための朝テスト、小テストの充実、成績優秀者の表彰 ・進路補習計画に模試対策の場面を設定 ・部活動との両立による学習時間の確保 ・キャリア・パスポートの活用【自身の目標設定】 ・システム手帳の活用【行動管理等】 ・観点別評価による授業改善【授業における評価場面の設定】	・基礎力診断テストにおける学力層Dの割合を15%以下とする (R4第1回:1年25.9%【D3:12名4.0%】、2年35.3%【D3:12名4.1%】)1年 は昨年度の1年と比較すると同程度 2年は1年次1回と比較すると6%増加。学力底上が課題 ・基礎力診断テストにおける学力層ABの割合を35%以上とする (R4第1回:1年29.6%、2年21.9%)2年とも昨年度と比較すると微増。2年は1年次1回と比較すると6%減少。学力維持が課題 ・国立大学合格者20名以上、公務員合格者10以上、進路決定率100%とする 取り組みを継続中。国立推薦志願者数は減少 ・学習調査の授業以外の学習時間について「ほとんどしない」生徒を前年度以下とする (R4第1回:1年39名、2年91名) 家庭学習が定着しない 手帳を積極的に活用している生徒は家庭学習できている【1年】 ・観点別評価教員アンケート実施 分析中	☆進路実現に向けた具体的な行動 ☆家庭学習の定着 【取組内容】 ○生徒へのきめ細かな指示 ○手帳の活用の推進 ○模試・検定へのチャレンジ ○進路を目指した学習	・基礎力診断テストにおける学力層Dの割合を15%以下とする (R4第2回:1年17.9%【D3:6名2.0%】、2年32.9%【D3:16名5.5%】)1年 は目標まで1.4% 2年は1回目からわずかに改善も目標値には達していない ・基礎力診断テストにおける学力層ABの割合を35%以上とする (R4第2回:1年38.1%、2年27.8%)1年は目標値達成 2年はわずかに改善も目標値には達していない ・国立大学合格者20名以上、公務員合格者10以上 国立19名、公務員8名 国立はもう一息 ・学習調査の授業以外の学習時間について「ほとんどしない」生徒を前年度以下とする (R4第2回:1年105名、2年95名) 家庭学習が定着しないのが大きな課題	本校の校是である学力・人柄・健康の3本柱の一つ。学ぶ力をつける必要がある。学びは能動的なものであるので自学自習の力をいかにつけるかが課題。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・県オリジナルアンケートの次の質問項目の肯定的回答 ②、③、④:80%以上 ②「考えや気持ちを分かりやすく伝える」 ③「いつまで何をするか決めて実行する」【R3】 「目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」【R4】 ④「計画通り進まないとき、どうすればよいか考え、乗り越えようとする」 (R3第2回②:1年72.5%、2年73.2%、3年80.5% ③:1年58.1%、2年58.4%、3年72.4% ④:1年76.6%、2年80.0%、3年90.1%) ・システム手帳の活用状況を70%以上とする	・学習活動の様々な場面や、システム手帳、キャリア・パスポート等による生徒の見取り ・生徒会活動の充実、遠足、ホームマッチ、ホームルーム、修学旅行、総合的な探究の時間(課題探究型にリニューアル)、コース・部活動の大会や発表会、実習等 ・学年集会、進路指導、部活動の場面での礼節を重んじる指導の充実 ・手帳の活用方法の指導	・県オリジナルアンケート第1回 ②(1年69.2%、2年69.7%、3年77.0%) ③(1年73.2%、2年69.4%、3年83.7%) ④(1年76.5%、2年77.3%、3年89.3%) ⑤③3年が8割 ⑥は設問が変わり自己評価が高	☆質問項目の生徒への意識付け ○キャリアパスポートでの振り返り ○体育祭、文化祭、修学旅行、総探の発表等や校外活動を通して、生徒に目標を持たせ、体験をさせることで生徒の主体的な活動を促す ○3年生が進路に向け主体的に活動できるよう支援をする	・体育祭、文化祭実施 ・修学旅行 2泊3日大阪神戸実施 ・芸術コース 音楽定期演奏会1/31、卒業制作展1/31~2/5 学校行事は、ほぼ予定通り実施 県オリジナルアンケート第2回 ②(1年76.5%、2年75.8%、3年83.9%) ③(1年69.2%、2年70.9%、3年88.8%) ④(1年78.1%、2年78.6%、3年88.0%) ⑤③3年が8割越え ⑥は全学年第1回より肯定的意見は増加 ・システム手帳の活用状況 1年49%、2年58%、3年66% ※平日に手帳を1回でも開く割合	社会性の育成 部活動加入率が高く、部活動で社会性を学ぶことが多くあったが、今後は郊外の場ランティア活動への積極的な参加や学校行事で学ぶ機会を増やす必要がある。

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○「どのように学ぶか」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	・学校評価アンケートの授業に関する設問の肯定的な回答 85%以上 (R3:生徒81.2%保護者80.3%) ・県オリジナルアンケートの次の質問項目の肯定的回答 70%以上 ⑩「授業のねらいが示されている」 ⑪「学習活動を振り返る場面の設定」 (R3第2回⑩:1年75.5%、2年72.8%) (R2第2回⑩:1年63.1%、2年55.5%) ・デジタル機器の多面的な活用(授業使用頻度、web会議頻度等) 【プロジェクター、タブレットPC等】	・学力検討会による各教科における授業改善の進捗の全体共有 ・公開授業と参観授業の実施【年間】 公開授業1回以上、参観授業2回以上 ・学校支援チームを活用した教科会の充実 【国、数、英、地、公、理 5教科】 ・ICTを活用した授業の研究と実践 (プロジェクター、タブレットPCの活用) ・観点別評価による授業改善 【プロジェクター、タブレットPC等】	・学校評価アンケート:未実施 ・県オリジナルアンケート第1回 ⑩(1年88.8%、2年65.6%、3年83.3%) ⑪(1年81.5%、2年57.8%、3年73.3%) 2年の数値が低い ・プロジェクターをホーム教室・選択教室に完備 使用頻度は確実に増加 授業での使用は日常化 ・タブレットの活用 総探、LHを中心に活用 授業においても活用が広がりつつある 準備後片付けて課題があるとの意見 ・観点別評価教員アンケート実施【再掲】 分析中	☆ICT活用促進 ☆観点別評価の学校としての共通理解 ○生徒用タブレットの研修実施 ○ICT支援員の積極的な活用 ※活用方法の個別相談の実施 ○公開授業、授業参観を実施 ○観点別評価教員アンケートの分析報告	・学校評価アンケートの授業に関する設問の肯定的な回答 85%以上 R4:生徒81.6%保護者78.4% 保護者の数値がR3より低下 (R3:生徒81.2%保護者80.3%) ・県オリジナルアンケート第2回 ⑩(1年74.8%、2年57.8%、3年73.4%) ⑪(1年76.5%、2年58.1%、3年73.0%) 2年の数値が低い ・プロジェクター ほぼ全ての授業利用教室に配置 ・タブレットの活用 利便性を広げる方向 ・観点別評価 教科主任会を実施→検証し来年度に向け評価の修正	観点別評価、ICTの利活用が本校のテーマである。この2つについて学校の取り組みを確立する。
生徒理解 生徒支援	○生徒支援委員会を中心とした生徒理解の促進、SCや関係機関とも連携した課題の早期発見とチーム支援	・学校評価アンケートの生徒理解・支援体制や取組に関する設問の肯定的回答 80%以上 (R3実績:生徒84.2%、教職員93.9%、保護者75.9%)	・毎月の学年会での生徒状況の共有と情報シートへの入力による情報収集 ・生徒支援会において支援方策の検討と支援の進捗状況の確認 ・面談の充実(保護者面談は年間1回以上)【4月生徒個人面談週間の実施】 ・SCとの連携による支援の充実	・学校評価アンケート:未実施 ・県オリジナルアンケート第1回 ⑦「学校生活は充実している」 (1年88.8%、2年82.2%、3年91.9%) 昨年度と同程度 他学年と比較し2年が低い ⑧「クラスでは安心して過ごすことができる」 (1年84.4%、2年81.1%、3年88.2%) 昨年度と同程度 他学年と比較し2年が低い	☆生徒理解と支援の充実 ○左記の具体的な取組の継続	・学校評価アンケートの生徒理解・支援体制や取組に関する設問の肯定的回答 80%以上 R4:生徒89.8%、教職員97.8%、保護者76.1% (R3実績:生徒84.2%、教職員93.9%、保護者75.9%) 徐々に理解が深まっている傾向がある ・LGBTQ対応 →生徒へ人権LH講演会・教職員研修の実施 ・支援を擁する生徒 →高知医大との連携 教職員研修 ・校則の見直しを実施 迅速な対応	本年度はLGBTQの課題が浮き彫りにされ目に見える形で対応を行った。今後も課題に真摯に取り組む生徒、保護者、教職員に見える形で示す。
学校の振興	○部活動の活性化により礼節を重んじる態度や仲間と協働する力、主体的に取り組む姿勢を育成する ○生徒たちが生き生きと学校生活に取り組めるような環境の実現	・各コースの特色ある教育活動の充実 (活動レベルを現状に合ったものに) ・全国レベルの大会(コンクール)出場がR2実績以上 (R3:延べ21競技・部活動) ・学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答 90%以上 (R3:生徒92.5%、教職員86.5%、保護者 89.2%)	・HP等の活用による積極的な情報発信 ・活動の成果を発表、紹介する場面の設定 ・部活動支援事業を活用した指導の充実 【文化部活動サポート事業、運動部活動指導員派遣事業】 ・ホーム主任や教科担当教員等と連携した文武両道に向けた組織的・計画的な指導	・HPへの部活動戦績の定期的な掲載 ・岡豊高校オープンキャンパス実施(8月)17校 88名参加 ・学生1日体験入学9/30、10/1 58校 442名参加 ・IH7競技53名出場入賞2/全日本都道府県対抗女子団体メンバー参加 3位入賞/総文7部門31名出場/全国ワープロ競技会1名出場/国体 女子バスケット3名、陸上1名出場予定/ ・IHでの競技会補助員としての生徒の参加 288名 四国IHでもあり積極的な活動ができている	☆部活動の更なる活性化 ☆類型、コース制の特色ある取組の推進 ○左記の具体的な取組の継続 ○部活動方針を意識した取組の継続	・学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答90%以上 R4 生徒94.3%、教職員79.5%、保護者 88.0% 例年と同じ (R3実績:生徒92.5%、教職員86.5%、保護者 89.2%) ・女子バスケ ウインターカップ出場 ・女子剣道 3月全国選抜出場決定 ・男女柔道 3月全国選手権出場決定 ・男子ボクシング ビン級 3月全国選抜出場決定 ・鹿児島総文 合唱、吹奏楽、ギター、美術工芸、文芸出場決定 ・囲碁・将棋部 新人大会出場決定 ・日本森林林業振興会 山火事予防ポスター 文部科学大臣表彰 他	令和5年度の学校創立40周年記念行事及び協賛行事を行うにあたって、部活動の振興も含め取り組む機会とする。
働き方改革	○限られた時間の中で、授業改善や生徒に接する時間を十分確保し教育効果を最大限に発揮できる環境を整備	・業務の役割分担、効率化による業務に対する負担感の削減 ・時間外勤務「月100時間又は連続した月80時間」の該当者 5名以下 (R3:1名この2年はコロナ禍のため少ない) ・時間外勤務の上限「月45時間、年間360時間を職員の30%に (R3:41.6%)	・OJTの観点から分掌の枠にとらわれず全員で担当できる業務を精選 ・勤務時間管理システムへの確実な入力(主な業務内容、週休日の休憩時間等) ・年間計画に定時退校日(長期休業期間と定期試験中)及び学校閉鎖日の設定 ・部活動方針による活動時間と休養日の遵守 ・業務の見直しをはかる	時間外勤務「月100時間又は連続した月80時間」該当者 2名 (R3:0名) 月45時間を超える教員数 4月24名 (R3:32)、5月21名 (R3:37)、6月25名 (R3:14)、7月13名 (R3:17)、8月2名 (R3:0)昨年度に比べ減少傾向 ※コロナウイルス感染症対策等の関係あり	☆教職員の健康管理 ○時間外長時間勤務者の月ごとの調査の実施の継続 ○引き続き教職員のオーバーワークの抑制に努める	月45時間を超える教員数 9月10名 (R3:4)、10月20名 (R3:18)、11月15名 (R3:20)、12月10名 (R3:9)、R5/1月14名 (R3:10)/2月9名 (R3:0) 昨年度並みだが、2月はかなり増加。	時間外勤務は、週休日などに部活動をするを超過する。引き続き教職員のオーバーワークの抑制に努めることが命題。